

静岡文化芸術大生 手塩の棚田米収穫



稲刈りに励む学生ら
|| 浜松市北区引佐町の久留女木の棚田

引佐・久留女木 耕作放棄地活用

大学生協などで販売へ

静岡文化芸術大(浜松市中区)の学生でつくるグループ「引佐耕作隊」がこのほど、北区引佐町の久留女木の棚田で稲刈りを行った。収穫した米は来年1月に大学生協などで販売する予定。

耕作放棄地だった田んぼを活用した学生による米作りは7年目。今年は学生17人が5月から定期的に棚田に足を運び、田起こしや田植え、田んぼの管理作業に励んだ。

学生は地域住民から助言を受けながら、棚田2枚計約300平方メートルに実った稲穂を鎌や機械で刈り取り、天日干しした。グループ代表で文化政策学部3年の高橋明日香さん(20)は「地域の方々の協力があつて収穫を迎えることができた。おいしく食べてもらいたい」と話した。

米作りはもともと、棚田保全のビジネスモデルの確立を目的にした大学の講義やゼミの一環だったが、昨年からは学生有志が活動を引き継いでいる。(浜松総局・柿田史雄)